

■ 講師紹介 ■

「家庭果樹を目的とした品種改良の必要性」 －機能性の高いブルーベリー葉の開発とその将来展望－



宮崎大学農学部副学部長 教授 國武久登 氏

プロフィール

1963年、福岡県久留米市生まれ、千葉大学大学院自然科学研究科博士課程修了、学術博士。専門分野は果樹園芸学、植物遺伝育種学。現在、カンキツやベリー類などの果樹を材料として、機能性成分に注目した品種改良に取り組んでいる。

講演概要

これまでの主要果樹の品種改良は、保存性や流通などを考慮した果樹園向けの果実育種に終始してきた。現在、果樹苗木の販売はその半数以上が家庭果樹としての利用に変化してきた。家庭果樹としての育種目標は、「完熟するまで樹上で置ける」、「果実の形や色のユニークさ」、「花や紅葉のすばらしさ」、「おい性で、鉢栽培が可能」、「無農薬栽培に適する」、「健康機能性が高い」など、これまでの目的形質とは違いがある。これからは、本当の意味での豊かさを感じることのできる特徴のあるガーデニング素材の開発が重要となる。

我々の研究グループは、宮崎県産作物の健康機能性を評価する中で、ブルーベリー葉に抗脂肪肝作用やC型肝炎ウイルス複製抑制効果(細胞レベル)などの生理機能がある可能性を見いだした。また、その活性成分がポリフェノールの一種であるプロアントシアニジンであることを発見し、その含量が暖地性栽培種であるラビットアイブルーベリーで特異的に高いことを明らかにした。さらに、品種間交配によりプロアントシアニジン含量が高い品種「くにさと35号」を選抜し、世界初の葉専用品種として登録をした(第23433号)。

現在、機能性を維持するよう改善された「釜入り茶」の方法を利用してブルーベリー茶を製造し、「ベリーフ」として販売が開始されている。今後、ブルーベリーを果実だけでなく、葉もハーブティーなどとして家庭で楽しんでもらえるような素材にしていく予定である。また、他の樹種においても「家庭果樹としての魅力」を引き出せるような育種を行い、新たな産業を活性化させることが重要であると思われる。



國武久登(単著)家庭果樹、NHK 出版(2009)

國武久登(単著)よくわかる栽培12ヶ月 ラズベリー・ブラックベリー、日本放送出版協会(2006)

國武久登(監修・共著)育てて味わうまるごとベリー、日本放送出版協会(2004)

■ 講師紹介 ■

環境の世紀の植物産業～ オフィス室内緑化を 東京発のグリーンニューディールにする！



東京都議会議員 山下ようこ 氏

プロフィール

1958(昭和33)年11月、東京都立川市生まれ。
千葉大学園芸学部園芸学科卒。大学では花卉園芸学専攻。
卒業後、民放ラジオ局のアナウンサーに。約20年にわたり、主にニュース報道に携わる。
放送の仕事のかたわら、植物産業にもかかわり続け、園芸関係の著書、連載多数。
2009年7月、東京都議会議員選挙で初当選(青梅市選挙区)。都市緑化の推進に力を注ぐ。
・花葉会幹事 ・元文部科学省委託事業「園芸療法教育プログラム」研究委員
・元武蔵野大学生涯学習センター「ガーデニング」講師

講演概要

東京都は21世紀最初の年、2001年4月に、条例による屋上緑化の義務化を開始した。
環境の世紀の幕開けにふさわしい画期的な施策だ。
一昨年には条例での規制が強化されるなど、屋上、壁面等、屋外の緑化は着実に前進している。
東京が、さらに緑豊かな環境都市になるためには、屋外だけでなく、建物内にも緑化の範囲を広げるべきと考える。東京の数あるオフィスビルの建物内を緑化する。
植物にはご存知の通り、物理的、化学的、生物学的、心理的効果等がある。
条例による室内緑化の義務化を成し遂げることで、働く人の健康・環境の向上、植物産業(生産者から小売りまで)の発展、そして異業種の参入等によって生まれる大きな経済効果が見込まれる。東京でのオフィス室内緑化は、まさに新たなグリーンニューディールになる可能性を秘めている。
山下ようこの室内緑化条例化に向けた都政での取り組みを紹介する。



・著書、監修等

『開運花の選び方・育て方』『花づくりポイントガイド200』

『色で楽しむ花図鑑500』『365日の誕生花～花言葉と花占い』など

・連載歴

『月刊フローリスト』『月刊園芸通信』『月刊PHP』『月刊園芸世界』『季刊花たば』など

・今年4月から『毎日小学生新聞』に連載開始！